

正満寺上棟式見学会 ～木造伝統寺院建築の上棟式法要～

尾道支部 米田 雅治



正満寺全景（中央奥が本堂）

福山市芦田町上有地（かみあるじ）にある正満寺は約820年前に天台宗のお寺として開創し、約680年前に浄土真宗に改宗して現在に至る歴史ある寺院である。数年前に本堂庫裏が焼失したため現在再建工事が岐阜県関市の亀山建設によって進んでいて4月15日に上棟式法要が行われるのにあわせて当工事の工事監理を担当している元廣建築設計事務所の御配慮で見学会をさせていただいた。亀山建設では自社で大工を教育・育成し、木造伝統建築の技術継承をしていて、寺院本堂の実績も多い。

あいにくの雨で屋根下地施工の終わった屋内での上棟式となり、午前10時に御本尊の前で導師・法中による法要が始まった。読経の続く中参列者による焼香があり最後に総礼で終わった。



導師、法中による読経（讃仏偈）

その後尾張藩の作業方（棟梁）を12代続く家柄の伊藤平左衛門氏より作法を教わった「工匠式」と呼ばれる儀式を以下の通り行われた。

寿詩文奏上（じゅじもんそうじょう）

無事上棟できたことに感謝し工事の無事を祈願するために棟梁がご本尊様に寿詩文（祝辞）をささげる儀式。

曳綱の儀（ひきつなのぎ）

導師、法中、棟梁、大工、門信徒、その他参列された人みんなで大棟木を引き上げる儀式で、紅白の縄二本を博士杭に括り付け、大工と棟梁の合図と掛け声で参加者の皆で「エーイ、エーイ、エーイ」と声出ししながら縄を引く。これを3回繰り返すが、実際は引っ張る真似をするだけで儀式は終わる。

槌打の儀（つちうちぎ）

棟木を棟に打ち付け、組み立てた全ての木組みに魂を込める儀式で大工が建物の長寿を祈願して3つの文言を3回唱える。

寿命長延：寿命がいつまでも続くこと

天長地久：天地が永久であるように事物がいつまでも続くこと

福德自在：幸福や利益が叶うこと

散餅・散華の儀（さんぺいさんかのぎ）

建物の四隅で餅をまいて厄払いをする儀式。

以上で儀式は終わり、総代長の挨拶の後、施工会社からの祝辞で本堂建設の説明があった。部材は中央部の2本の柱が直径40cmのケヤキ、その他の柱は直径30cmの檜、長スパンの桁・梁は米松、それ以外の軸組は全て檜を使い、鉄筋コンクリートの基礎以外は虹梁、貫、仕口、組物等の伝統工法により組上げられている。とはいえ現在の法規に適合するように金物、格子耐力壁、格子耐力垂れ壁を使い構造計算をしている。その後、住職からの謝辞があり最後に全員で祈念写真を撮って式は無事終わった。このような伝統建築を継承できる建設会社が存在していることに頼もしくまた安堵した。



小屋裏の木組みと格子耐力垂れ壁

MONTHLY 建築士
No.183

HIROSHIMA



表紙写真について

実践倫理宏正会三原支部朝起会場

- 所在地／広島県三原市東町二丁目13-4
- 敷地面積／732.32㎡
- 建築面積／372.29㎡
- 延床面積／829.35㎡
- 構造規模／木造 地上3階建
- 設計／(株)竹中工務店
- 施工／関西住建(株)
- 撮影／古川泰造

一般社団法人の三原支部の拠点である。日々の活動と共に、三原市の地域性や周辺環境の特性に配慮し、地域とのつながりを意識して人と人、人と地域をつなぐ家のような施設となることを目指した。計画地は古来、街道筋の宿場町として栄えたことから、軒空間を通りに差し出し、エントランスホールへとつなぐ、内外が一体となるような空間構成とした。また、木造とすることで、周辺の住宅地に配慮したボリューム感の低減、通りから垣間見える木質空間による親しみやすさを表現した。外装材は、テクスチャーのある塗壁調の材料を採用し、背後の山の風景や周辺の落ち着いた住宅地の環境に寄添うように配慮した。明るくやさしい佇まいと空間を介して人や地域がつながっていくことを意図している。



CPD 認定プログラム(6 ～ 7月の広島県内実施分)

2023年5月8日現在

日 時	プログラム名	単 位	主 催	連絡先
6/20	【第1回】労働安全衛生特別教育(高圧・特別高圧電気)講習会(1日目) 6 / 20	6	日本電気協会 中国支部	082-243-4237
6/21	【第1回】労働安全衛生特別教育(高圧・特別高圧電気)講習会(2日目) 6 / 21	6	日本電気協会 中国支部	082-243-4237
6/27	第一種電気工事士定期講習(福山) 6 / 27	6	日建学院	03-3988-6201
6/27	第一種電気工事士定期講習(広島) 6 / 27	6	電気工事技術講習センター	03-3435-0897
6/27	自家用電気工作物保安管理規程講習会 6 / 27	5	日本電気協会 中国支部	082-243-4237
6/28	【第2回】労働安全衛生特別教育(低圧電気)講習会 (広島会場)	8	日本電気協会 中国支部	082-243-4237
6/30	第一種電気工事士定期講習(広島) 6 / 30	6	電気工事技術講習センター	03-3435-0897
7 / 5	既存住宅状況調査技術者講習(更新)	2	広島県建築士会	082-244-6830
7 / 6	電気技術者のための「電気関係法規」実務講習会	5	日本電気協会 中国支部	082-243-4237
7 / 6	「良質な公共建築の整備を目指してー令和6年度新営予算単価と設計料算定ー」説明会	3	公共建築協会	03-3523-0382
7/13	R05年度建築物石綿含有建材調査者講習	6	株式会社 ERI アカデミー	03-5775-7848
7/13	「電気設備の技術基準とその解釈」講習会 7 / 13	6	日本電気協会 中国支部	082-243-4237
7/14	R05年度建築物石綿含有建材調査者講習	5	株式会社 ERI アカデミー	03-5775-7848
7/14	太陽電池発電設備メンテナンス技術講習会 7 / 14	6	日本電気協会 中国支部	082-243-4237
7/21	建設現場における心理活用 コミュニケーションと業務効率化2023(後編)	6	インターウェーブ	099-812-0677
7/22	H1101 壁装施工の実践技術	6	広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
7/23	H1101 壁装施工の実践技術	6	広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
7/25	第一種電気工事士定期講習(福山) 7 / 25	6	日建学院	03-3988-6201
7/27	第一種電気工事士定期講習 7 / 27(広島市)	6	電気工事技術講習センター	03-3435-0897
7/29	H0701 BIMを用いた建築生産設計技術	6	広島職業能力開発促進センター	082-245-4338
7/30	H0701 BIMを用いた建築生産設計技術	6	広島職業能力開発促進センター	082-245-4338



「より早く・より親切に・より分かり易く」をモットーに
より確かなサービスを提供します



■ 指定確認検査機関

■ 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

■ 住宅瑕疵担保責任保険業務

■ すまい給付金関連業務

■ 指定構造計算適合性判定機関

■ 適合証明業務(フラット35)

■ 調査診断業務(遵法性調査、定期報告等)

■ 登録住宅性能評価機関

■ 長期使用構造等の確認業務

■ 建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)評価業務

12条点検は弊社におまかせください



株式会社 ジェイ・イー・サポート

URL <https://www.jesupport.jp/>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-8-6F
TEL : 082-836-3300 FAX : 082-228-8201
支店：東京 事務所：福岡
e-mail : mail@jesupport.jp



安全で安心な住まいづくりをサポートします。

◆ 建築確認・検査

◆ 住宅性能評価

◆ フラット35適合証明

◆ 長期優良住宅技術審査

◆ 低炭素建築物技術審査

◆ 住宅かし担保責任保険

◆ 省エネ関連業務

◆ すまい給付金サポート

◆ リフォーム評価ナビ

◆ 地域型住宅グリーン化事業申請窓口

◆ ベターリビングリフォーム審査業務



指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関
株式会社 広島建築住宅センター
URL:<http://www.hkjc.co.jp>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-10
TEL (082) 228-2220 FAX (082) 228-2231
営業所 〒720-0034 福山市若松町8-22
TEL (084) 928-3979 FAX (084) 928-3974

指定確認検査機関(中国地方整備局長指定第1号) 登録住宅性能評価機関(中国地方整備局長登録第5号) 登録省エネ判定機関(中国地方整備局長登録第3号)

BELS 低炭素建築物 長期優良住宅 建築確認 住宅瑕疵保険 フラット35 適合証明 住宅性能評価 省エネ適判

ハウスプラス中国は
迅速、的確な審査で、皆様の建物の
安全、安心をサポートします。



中国エリアをすっぽりカバーしています



ハウスプラス中国住宅保証株式会社

<https://www.jutakuhosho.com/>

広島支店・広島本店：広島市中区国泰寺町1-3-32 国泰寺ビル
TEL : 082-545-5607 FAX : 082-545-5608
広島北支店：広島市安佐南区西原6-9-40-7 TEL : 082-832-3310 FAX : 082-875-4330

2

3

広島県建築士会 創立70周年記念 講演会 令和4年度公開まちづくりセミナー

事業委員会 委員長 浦山 豊隆

令和5年3月13日（月）に「広島県建築士会 創立70周年記念講演会」と冠して「令和4年度公開まちづくりセミナー」を開催しました。

会場は広島県民文化センター 多目的ホール、約260名と多数のご来場をいただきました。

講師には、プリツカー賞を受賞されるなど、建築にとどまらず、自然災害や戦争災害による被災支援活動など、世界的にご活躍されている、坂茂先生をお迎えしました。

この3月1日に広島県大竹市にて、坂茂先生が設計された下瀬美術館が完成、そのオープンタイミングに合わせて講演会をお願いすることができました。



世界中での災害支援のボランティア活動

災害で家を失った人たちなどのお手伝いをするのも建築家の仕事ではないか。自然災害が起こっているが、人々が怪我したり、亡くなられたりするのには建築が崩れることに起因している。まちが復興するまでの仮設住宅などの住環境をよくすることも建築家の仕事ではないかと考え、最近ではトルコやウクライナなどでも活動を行っている、という話がありました。

初期の紙管を建築材料に用いた作品

初めての仕事が建築家・アルヴァ・アアルト氏の展覧会の会場構成と企画の仕事でした。

アアルトラしい曲線を用いた会場構成がしたいが、木をたくさん使うには予算よりも高価であるため、木の代替え材料がないかと考えた時に自分の事務所に捨てられずにためこんでいた紙管を利用することを思いついた。

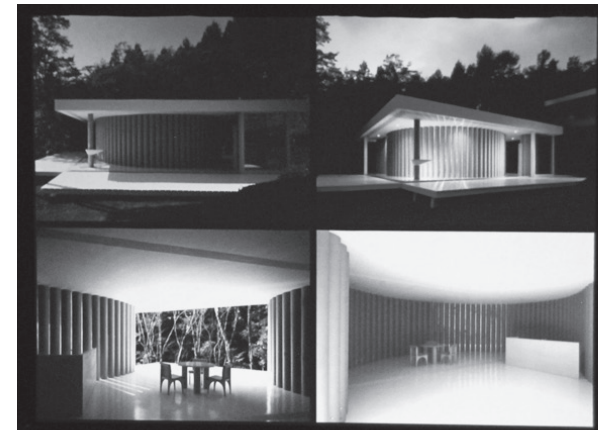
紙管を用いることで、天井や間仕切壁などを、アアルトラしい曲線を表現することができた。

使ってみたら強いとため、構造躯体として使用することができなかと考え始めた、とのことでした。

近作について

特に印象深かった近作は、フランスの国立近代美術館分館のコンペで優勝した、ポンピドーセンター・メスのプロジェクトでした。

コンペで提案した建築をその絵のままに実現するためには、ローカルの設計事務所と組むのではなく、自前の設計事務所を現地に設置することが必要と考え、場所探しをしたところ、なんとパリのポンピドーセンター内の屋上のテラスを借りることができたそうです。その事務所はもちろん紙管の建築で、日本の大学生も参加して、ワークショップ形式で建築したとのこと。ポンピドーセンター内の事務所ということで、事務所の中をギャラリー



のように、案内することができるため、無償で借りることができた代わりに、訪問者が来るときには、「事務所もスタッフも展示物の一部なので、1階で入場券を払って会いにきて」というような、不便な状況もあったそうです。

15m×90mのギャラリーチューブの両端にピクチャーウインドーを設け、3本のギャラリーチューブを45°ずつ振って積み重ね、その上に六角形と三角形のパターンで竹細工のように編まれた木造屋根をかけている。その屋根は、中央の鉄骨のタワーからの吊構造とした曲面形状になっている、とのこと。

災害支援について

1990年ルワンダの内戦

（ユネスコとコンサルタント契約、紙管のテントが採用）

1995年阪神淡路大震災（紙管の仮設住宅、紙管の教会）

1999年台湾（紙管の教会の移築）

1999年トルコ大地震（紙管の仮設住宅）

2001年インド大地震（紙管の仮設住宅）

2008年成都大地震（紙管の仮設小学校）

2009年ラクイラ大地震（仮設音楽ホール）

2010年ハイチの洪水（紙管の仮設住宅）

2011年東北大震災（大槌町等50ヶ所余りの避難所にて紙管の間仕切、女川町で市松模様の立体コンテナ仮設住宅）

2015年ネパール大地震（木フレームにレンガ造、木フレームに石組 仮設住宅）

2018年広島と岡山の豪雨災害（紙管の間仕切）

2020年熊本の豪雨災害（紙管の間仕切） 15年を経て、内閣府から避難所の標準品に認定

2022年2月、ウクライナにロシアが侵攻（紙管の間仕切、FRPの復興住宅）

世界のあらゆる地域で、迅速に災害支援活動されていることに驚きました。

また「自分たちが参加するのは復興が始まる前まで、と決めている。復興については地元建築家が行うべきであるから」という言葉にも感銘を受けました。



最後に

坂先生の活動は「世界に求められるスタイリッシュな建築」と「災害支援」の2つの活動があり、それらの活動には相関がないように見えていましたが、2005年に設計されたノマディックミュージアム（グレゴリー・コルベールのコンテナを利用した巡回美術館）の発想は、災害住宅として建設された女川町の仮設住宅（市松模様の立体コンテナ住宅）に活かされていると感じられ、また、その考え方は下瀬美術館の水盤に浮くギャラリーがコンテナのように見えていることにも連想される、と感じました。

さらに、「災害支援」で活躍する「紙管の建築」についても、仮設住宅として利用されているものの、海外では、仮設住宅がその後、学校に転用されて長く使われている事例や、神戸にあった紙管教会が寄付によって、台湾に移設、再建されたという事例もある、とのこと。

「何が仮設で何がパーマナントな建築か？ 赤坂プリンスホテルはコンクリートでつくっても30年で解体されている。たとえ紙でつくっていても、愛され続ければ、パーマナントな建築になりうる。それが僕が考えるパーマナントの建築と仮設建築の定義の違いです。」との坂先生の言葉は、これからの社会に求められる建築のあり方を示しているのではないのでしょうか。

この記念講演会を通して、災害支援活動と建築について、仮設性とパーマナントの考え方について、考えを深める良い機会となり、将来の社会や建築の発展につながっていくことを願っております。